

第2期武蔵野市環境啓発施設運営会議（第8回）議事要録

日 時 令和5年3月28日（火）開会 午後6時 閉会 午後8時

開催方法 Web 会議システム使用によるオンライン開催

参加者 委員 10名、事務局 6名

小澤委員長、鈴木副委員長、光田委員、幕田委員、中西委員、村井委員、
新保委員、野村智員、奥野委員、大塚委員

1 議事

令和5年度むさしのエコ re ゾート事業計画について

2 報告事項

(1) 第15回むさしの環境フェスタ・第2回むさしのエコ・チャレンジの事業結果
について

(2) 環境啓発冊子の改訂について

(3) 運営会議委員視察について

(4) 武蔵野市第六期長期計画・調整計画のヒアリングについて

3 その他

委員意見・質疑及び事務局回答

発言者	要旨
1. 議事	
事務局	<p>資料1について説明。</p> <p>前回、事業の位置付けについての指摘があり、改めて来年度、エコ re ゾートの事業としての取り組みについての基本的な考え方を整理したい。</p> <p>エコ re ゾートは、武蔵野市エコプラザ管理運営方針、武蔵野市の第六期の長期計画・環境基本計画に基づいて、市の環境施策を推進し、持続可能なまちづくり、SDGsの達成を目標としている。その目標実現のための3本の柱を、「環境に関する情報の集約と発信」「環境の学習、体験の機会の提供」「市民・団体・事業者等との連携・活動への支援」とし、前回案内した各種事業がそれぞれ位置付けられている。</p> <p>令和5年度の新規事業としては、初開催した令和4年度気候市民会議で気候危機打開武蔵野市民活動プラン（仮称）を作成する。環</p>

	<p>境の学校では、環境啓発の拠点づくり、団体との連携の強化としてカフェトークを始める。</p> <p>拡充事業としては、環境フェスタについて、各種主体と連携し、一般廃棄物処理施設の一部であるエコ re ゴートがクリーンセンターともさらに連携を深めて、市全体での取り組む形で枠を広げる。ものづくり工房では、環境フェスタ in SUMMERをはじめ、季節ごとのワークショップの実施などを中心に強化する。環境啓発につながるようなエコ re ゴート施設の貸し出しを、各種団体と連携し利用促進・活用を図る。</p> <p>見直し事業としては、環境の学校を単独の講座と連続講座、単独講座に分け、Green プロジェクトと環境の学校の連続講座等を融合させる。サポーター養成のための事業は切り離し、別途実施をする形を取る。</p>
事務局	<p>資料 2、3 について説明。</p> <p>それぞれの事業は、一つだけではなく、複数の目的に関わっている。</p> <p>環境フェスタは団体・行政が一緒になり、市民の体験機会をつくってきたが、次年度はクリーンセンターとさらに一体的に連携し、秋に戻して本来の姿で機会をつくっていく。</p> <p>エコ・チャレンジは、環境フェスタと一緒に組み入れた形だったものが別々の形になるため、本来の啓発事業に関わっていた方々が再度集まり、次のステップアップを行う。</p> <p>次年度はもっと多面的にいろいろな市民の方々と接点を持ちたいと思っている。</p>
委員	<p>これまでの環境フェスタ等では、子ども向けが多く工作というイメージが強かったが、エコ re ゴートのターゲットは子どもだけではない。環境について学びたいと思っている、もう少し年齢の高い市民にも注目し、考慮して事業をされてはどうかと思う。</p> <p>学びの体験機会の創出はあるが、知識を深めるために学びの継続という観点で、その機会の提供にも盛り込んでいただきたい。</p>
委員長	<p>管理運営方針で「学び合う」点等が消えてしまっている感じがする。四つぐらいの項目を立てて施設運用することを基本方針として、再検討をお願いしたい。</p>
委員	<p>来場者の内訳では、10 代、20 代が圧倒的に少ない。この層が一番忙しい年齢である上に、環境フェスタ、エコ・チャレンジでこの年代の対象となるものが少なかったのではないか。この人たちに訴え</p>

	<p>るべきものは多いし、期待するべきところも多いと思う。</p>
事務局	<p>施設の今のありようの強みと弱みが、年齢層のところで見えてくる。</p> <p>子どもたちと一緒に来場する家族、大人向けのアプローチが十分ではなかったと思っている。次年度は、子どもをフックとし、一緒に来ている大人たちに、次の環境の学校の個別講座について都度案内して一緒にいていただくことを想定している。</p> <p>学校が忙しい子たちに対しては、既に環境の学校 PR プロジェクトとして、高校生・大学生が環境のことや頑張っている市内の団体をレポートし、冊子やウェブ上で同世代に伝えていっているので継続していきたい。</p> <p>小学校3年生と中学校3年生向けの冊子2冊を改訂したので、学校での活用や、こちらに来てもらって対応するなど立体的に事業を絡ませて、年齢層のアプローチの幅を増やしていきたい。</p>
委員	<p>講演会やウェブに出しているコンテンツがたくさんある。その情報提供、集約という点で、このコンテンツを貸し出ししてはどうか。ふるさと歴史館はコミュニティセンターに共同展示しているので、コミュニティセンターでやってもらえる人に持ちかけて、ウェブで見ない人にそこで見てもらう。これだけのコンテンツなので、そのアーカイブを売りにして情報提供の中に仕かけていったらいいと思う。</p>
委員長	<p>そういうコンテンツへの要望は事務局に届いているか。せっかく作ったものが倉庫に眠っているだけではいけない。活用してもらえるといい。</p>
事務局	<p>やってきたことが実績としてはたまり始めている。やったこと、これからやることを、ここに来られている方以外にどう広めていくかが課題。</p> <p>3月4日、5日に、キン・シオタニさんをお呼びして講演会を行ったとき、会場のキャパを超えた場合のために、カフェスペースをパブリックビューイング的に使って入れなかった人を収めていく想定をした。実際には行わなかったが、そういう想定しておく、ほかでもできる可能性が出てくる。多くの方に見ていただけるような接点を作っていければと思う。</p>
副委員長	<p>去年から第六期の長期計画の委員もやり、67年武蔵野市に住んでいるが勉強が全然足りなかったと実感している。</p> <p>エコ re ゾートはできたばかりでゼロからスタートだが、武蔵野</p>

	<p>市の歴史は相当なストックがある。そこから掘り起こして、今の武蔵野市の環境がどうなっているのかを市民に見せることが大切だと思う。武蔵野ふるさと歴史館は、武蔵野市の歴史がストックされているけれども、みんな読み方が分かってないと感じる。</p> <p>第六期長期計画の会議や市民の方の意見交換会では、生活・文化・緑・環境に関する要望がすごく多い。そういう要望に応える拠点がエコ re ゴートだと思うが、何かの事業を行うことに注力され過ぎて、事業が目的化している感じがする。武蔵野市の環境のありようはこうだときちんと見せるなど、まずベーシックなことが大事ではないか。</p> <p>施設見学では、ベーシックな情報をどう伝えるかが大事だと痛感した。さまざまな常設展があったが、広告代理店が作っていて、面白がらせる、興味を持たせることに着目し過ぎてファンタジーになっていた。そうではなく、武蔵野市の緑が今どのくらいあるか、農地がどのくらい江戸時代から減っているのかといったことをビジュアルで見せる施設はここしかないので、そこをもう少し頑張ってもらいたい。それがさっきの学びにもつながると思う。</p>
委員長	<p>中高生は過去に学ぶ。でも彼らは、未来からも学んでいる。自分たちの将来がどうあってほしいか。地域は「屋根のない学校」なので、配布されている教科書だけで学んでいるわけではない。昔、エコプラザと仮称していた前身、この管理運営方針の前にまとめた報告書にはそういうものが入っていた。</p> <p>楽しく学ぶということは、自分事として捉え、それが物事を深めていく。地球の危機的な状況に対しては、意識変容だけではなく行動変容も起こさないといけない。その行動変容には、政策的にお金を出さなくてはならない。そこが今問われているということで、皆さまからご意見をいただいた。</p>
委員	<p>せっかく環境フェスタでいろいろなことをしても、それを全部取り除いてしまっただけでは次に見学したときに何も無い。環境フェスタで一生涯懸命作ったものを置ける場所を作り、常設展示のような形で入れ替えるのもいいと思う。</p> <p>武蔵野市桜まつり実行委員会に会長の代わりに副で参加したが、来年は、市役所とここの通りをホコ天にして、こことエコ re ゴートとクリーンセンターを巻き込んだ桜まつりにしたいと提言した。市民の方は相当来られるので、そのときに環境フェスタと同等のことを皆さんに見ていただくよう PR したらいいと思い、提案した。</p>

委員長	<p>広げていくということに対しても大事なことだと思う。気候変動等を、科学的に学ぶことも大事だと思う。</p>
委員	<p>この数年、新型コロナウイルス感染症とその接種会場になったことで思うようにできなかったので、これからどんどん事業をやっていこうというのはよく分かる。</p> <p>武蔵野市には住宅地や井の頭公園、私は千川上水等、いろいろな場所があるので、住民に対して武蔵野市がどんなところかを見せるところがあるといい。大学の学生たちは学校に来て帰ってしまう。見ているのは吉祥寺の街だけなので、そういう人たちに教えられる場があればいいと思う。</p>
委員長	<p>武蔵野市には幾つかの大学があるので、そういった方たちと連携が取れるといいと思う。</p>
副委員長	<p>先ほど提案した、武蔵野市の環境の在り方を展示する常設展示をやるとすると、その予算化はどのくらいリアリティーがあるか。</p>
委員	<p>すごく貴重な意見をいただいている。環境基本計画の書きようは分かるけれども、どう事業につなげていくか。資料も事務局のコンセプトも弱いと感じる。</p> <p>4年目、5年目に向けて、どう動いていくかがこの3年目に問われている。事業の羅列で、イベントが目的化しているように見えるので、どういうコンセプトで各事業をどう評価し、次の年にどうつなげていくのかという長い目を見た道筋を付けていかなければいけない。</p> <p>予算化についても、よほど大きい事業でなければ、それなりにはできると思う。</p>
副委員長	<p>広告代理店を入れたようなものではなくて、ベーシックな、最小限必要な情報をきちんと展示する。それでも予算は要ると思う。</p> <p>常設展は、すぐほこりをかぶって陳腐化するのが世の中の常だが、ベーシックなものに限ればそういうことはないと思うのでぜひお願いしたい。</p>
委員	<p>各施設でいろいろな材料を持っているので、それを集めてきて、環境の視点から見せていくのもここの役目だと思う。</p>
委員長	<p>ここの施設の方針は、手づくりで物事をつなげ、深めていくという人間の本来の持っていた思考回路を活性化していくこと。そういうコンセプトをもう一度考えて、進めていただきたい。</p>
委員	<p>武蔵野市の地図で、子どもたちが色を塗って、ここにはどういう</p>

	<p>ものがあるのかを書いたり、シールを貼ったりする。そういうものも展示でやっていただきたい。</p>
委員	<p>自然の話で言うと自然塾というのがある。そこに専門家がいるので拠点になるべきだが、場所がサテライトで離れている。東京都の井の頭公園文化園とも共同で展示をやっているの、そこも一つのサテライトになっている。そういう専門家、人材には金がかかる。</p> <p>成蹊学園の中高の生物部は生徒さんが多く、熱心な先生がいらして、ふるさと歴史館で共同展示、連携展示を行った。自然のことはかなりのデータがあり、気象台の気象観測所も持っている。人材と設備、その蓄積について話し合っ、どこで展開していくかということ連携会議をしてまとめていく。自然だけでも相当な仕事だと思うので、役割分担などを来年検討して欲しいと思う。</p>
2. 報告事項	
事務局	<p>資料4について説明。</p> <p>むさしの環境フェスタとエコ・チャレンジは3月4日、5日に開催され、両日とも約1,000人ずつぐらいが来場した。大きく分けると、本来秋にやった環境フェスタがずれ込んで一緒になったもの、さまざまな団体によるワークショップ、事業に参加した市民の方々の発表や意見交換をする発表会の3本がこの催しの中に入っており、楽しいものが詰まっていたので来場者の満足度が高かった。</p> <p>環境フェスタは当初、秋にできるかという心配があったので、別場所でやるポップアップイベントや、オンラインでやるイベント等の逃げ道を作りながら行った。そのオンラインイベントは、中高生が市内で頑張っているいろいろなところにヒアリングに行って記事を書き、冊子を作ってページに載せていく活動をしてきた。</p> <p>ポップアップイベントは、キラリナとエコ re ゴートの中で前倒しで工作教室を行い、作ったものを最終の3月の催しのところに一気に集めて飾り付けをする形を取った。廃材を使った動物たちのジャングルになったが、非常に高く空間がある施設の特性をうまく使った立体的なものの見せ方ができ始めたかと思う。</p> <p>初めてキッチンカーを入れ、事業所のワークショップとしてカフェを使って、コーヒー豆の生産地のこだわりや配慮、行動学んだり、実際のいれていただいたコーヒーの試飲も組み合わせることができた。</p> <p>発表会オープニングトークで、吉祥寺を拠点にしながら、いろいろ町を見聞きして発信しているキン・シオタニさんに、むさしのエ</p>

	<p>Core ゾートや武蔵野市は成り立ちの話をし、その場で行ったライブペインティングを残していただいた。</p> <p>発表会では、いろいろな団体の方々の取り組みが紹介され、工作教室のようなワークショップを数々入れていただいた。</p> <p>反省としては、広い空間は多面的には使えるが、音の出る催しのときに同じ空間に工作教室を入れたところ、それぞれにハレーションを起こしてしまった。今後は、影響を受けないように時間や場所を区切って工作をしたり、楽しんでいただくことを考えている。</p> <p>次年度は、環境フェスタが抜けて、本来の事業に携わった方々が集まり、それぞれの交流やワークショップは続けていく。</p>
委員	<p>このキッチンカーの方は来てよかったと思われたのかどうか。</p> <p>来場のきっかけでは、市報が結構多いので、今後、来場するきっかけづくりにかなり力を入れて考えないと難しいと思う。</p>
事務局	<p>ワークショップについての実施団体の方々へのアンケートでは、キッチンカーの方も含め、ほぼ全ての団体から、やりたいことがほぼやれて機会があったらまた参加したいというご意見をいただいた。キッチンカーは、ほかのところでは場所代や売り上げの一部が必要なのに対し、ここでは不要を前提で入っていただいたので、やりやすい側面もあったと思う。</p> <p>市報も意外とご覧いただいている、タイミング的にもちょうどよかった。小学生向けに全員配布したチラシや、ワークショップの日時を掲載したホームページも来場のきっかけとなった。ワークショップ時の次回予告や、SNS 投稿による発信によっても来場者が徐々に増えているの感じられた。</p> <p>この催しをルートとして参加していただける方にも届きやすい形を考えていければと思う。</p>
委員長	<p>オンラインイベントで中高校生レポーターは、どういうふうに集められたのか。また、彼らの参加によって、中学・高校生に広がりが見えたか。</p>
事務局	<p>チラシなどを作ったり、高校生と日ごろから接点のある役所ルートを通じて内容を出してもらってやりたい子たちをつかまえたり、個別にわれわれのネットワークの中でつかまえた子が以前の環境の学校の参加者だったということもあった。まだ手探り状態。中高生の来館者が少ないが、その年代へのアプローチをいろいろ今試している。PR プロジェクトとやっている行為自体はとても似ているが、若い世代が頑張っている大人に話を聞きに行き、子どもたち目</p>

	<p>線でもう一回捉え直してもらうことは、いろいろな意味で刺激になると思う。</p> <p>環境フェスタのオンラインイベントのエコレポーターと PR プロジェクトがそれぞれ走り、分散したような気がしている。次年度は、一つにまとめた形でやれたらと思う。</p>
委員長	<p>「季刊むさしの」で、中学生が職場体験に行っ報告を書いていて、いいなと思っていた。そこを広がっていくということか。そこをきっかけにして、小学校の高学年でこのエコレポートで遊んで、学んで、深めていけるといいと思って報告を伺っていた。</p>
委員	<p>音響の問題は、この施設ができたときから言われていて、カフェのスペースで講演をしても響いて聞こえにくい。また、映像を出すときにプラットホームが明る過ぎて、トップライトから入る光に苦労されていた。</p> <p>これは職員だけでなく、ある程度プロに入ってもらって、音響の効果を上げたり、トップライトを電動で制動できるよう予算を取っていく。少ない人材で運営していくのは大変なので、解決していったほうがいいと思う。</p>
委員長	<p>部長も出席されているので、ぜひそういう予算取りについて、ご協力をお願いしたい。</p>
委員	<p>資料4の「来場のきっかけ」では、「市報」と「チラシ」が多い。「環境フェスタ」というのは、環境フェスタに来た人がという意味なのか。友人・知人の紹介が一番である。小学生が来るとお母さんが来て、ママ友で口コミするのがとても多い</p> <p>中高生の参加では、水の学校サポーターズ・サロンで下水道に流してはいけないものの実験「ツマラン管」をやっているが、そこに環境の学校に参加していた、一番忙しい世代の高校1年生が来て、手伝ってくれた。学校でも、今環境関係は力を入れているとのことだった。</p>
委員長	<p>こどもエコクラブの全国大会の壁新聞の審査などを行っているので、日曜日に大会を見に行った。中高校生も結構参加していて、日本の未来は明るいと思った。ここの場がそういう場につながっていくよう、スタッフの皆さんにご努力をお願いしたい。</p> <p>先生方の研修も環境省から委託を受けているが、環境教育や ESD は難しいという声が多い。オンラインでもやっていたが、少しコロナから開放されると思うので、ぜひみんなでやっていきたいと思う。</p>

事務局	<p>環境啓発冊子は、地球温暖化について小学校6年生向けに8年前ぐらいに作った冊子を、今年度中学校3年生向けに改訂して作った入門編となっている。もう少し情報が膨らませた実践編の冊子とウェブ版も作った。年度内に完成予定で、来年度早々に配布したい。</p> <p>内容については、同世代で頑張っている子たちの紹介したいと思い、学校をヒアリングして記事を作っている。成蹊のけやきプロジェクト等の内容を記事にしてウェブに入れている。中学3年生のとりかかりとなり、できれば継続して高校生ぐらいまで使ってもらい、温暖化の問題に接してもらえればと思う。</p> <p>ウェブでの質問に施設で回答してコミュニケーションを図ったり、次年度はカフェトークや環境の学校の個別講座を開き、若い世代が集まって温暖化のことを考えるような講座を入れていきたい。</p> <p>成蹊の皆さまをはじめ公立学校以外にもお世話になった。取材で都立武蔵にも伺ったり、明星の「mymizu」のプロジェクトで紹介させていただいているような学校にも案内をし、必要なものを届けていきたい。</p>
委員	<p>気候市民会議の代表と高校生の方や、横浜市立東高校の部長さんが出ている。若い人の取り組みを出していて、非常によくやってくださっている。</p> <p>ウェブでのやりとりという話もあったが、あまりこの問題に関心のない人に、質問を投げかけて答えるていく機会、個別会議や個別講演会のようなものがあるといい。</p>
委員長	<p>ESD 学会で、掲載の学校の中高校生の発表を伺ったことがある。少しずつ中高校生の輪が広がっていくことを期待して、ぜひ活用していただきたい。</p>
副委員長	<p>タイトルの「ところで、いつまで地球に住むつもり？」は、副読本の毒なのかと思った。ミスプリには気が付いていたが、わざとそうになっているのかと思った。毒も必要だとは思いますが、毒になっているかどうか。</p> <p>2 ページ目の「地球の気温は程度な温度に保たれている」は「適度」ではないか。適度な温度とは何度なのか。</p> <p>地球温暖化と都市気象と混同している人が多い。ちゃんと分けられる知識を得るのにこれだけのボリュームでは難しいかと思う。</p> <p>東京都の生物多様性基本戦略という副読本には、ここにある要素が全部入っていて、地域ごとに地域戦略を解説している。生物多様性と地球温暖化のCO2の削減の目標がどう関わっているのかもよく</p>

	<p>分かり、中学生なら読めると思うので、チェックして見比べてほしい。</p>
委員	<p>中学3年生に配布は、中3のいつぐらいなのか。また、配布で終わりなのか、それとも授業等でこれを取り上げる時間が生まれるのか。</p>
事務局	<p>配布は1学期のなるべく早いタイミングで行う。小学3年生向けの冊子も、夏休み前に配ろうと思っている。</p> <p>副読本という位置付けだと文言のチェック等で大変なことになるので、学校授業で必ず使われるセットにはなっていない。先生に参考資料にして使ってもらうこと期待するが、こちらでできることとして個別講座等のサポートができたらと思う。高校でのお話もあれば、相談しながらサポートできること考えていきたい。</p>
委員	<p>タイミングによっては、受験で読まれないままだったり、やりたいたいけれども親が許してくれないこともあるかと思う。授業で触れたり、進路の参考にしたり、興味を持って自分で研究してみようことなら中学校2年生でもいいのではないかな。興味を持ってもらいやすいタイミングと、それに対して自分でアクションが起こせるタイミングの二つを考えて進めていただけたほうが良いと思う。</p>
委員長	<p>文科省が方向転換して、3年前から教育課程を変えている。環境のことは暗記することではない。暗記してテレビのクイズ番組に出るようなことは武蔵野市には要らない。ぜひ中学2年生からこの冊子を見て、深めたいときはエコ re ゾートに来て学ぶという視点で進めてほしい。鈴木委員ご紹介の東京都の副読本も1階の本箱に置いてもらって、深める場として使っていただいてもいいかと思う。</p> <p>環境教育の指導資料などについての先生たちの検索が増えるのは6月ぐらいで、5月の連休が終わったぐらいから徐々に教材研究を始める。そこを狙って、夏休みに冊子に対して研修をするなどして、私立も含めた先生たちに来場の声かけなどもしてもらえるとありがたい。</p>
委員	<p>小学校6年生に税金のことを教える租税教室を武蔵野市、三鷹市、小金井市の3市をやっているが、各市の校長会でお願いのあいさつに行っている。部長さんなりが配布や説明のために校長会に参加するのも手ではないかと思う。</p>
委員長	<p>私も中学生向けのある副読本を作っていて、その作文を公募している。読ませてもらうと、すごく深い読みをしている。コロナのあった期間だからこそ深めてみたいところが出てきているか。肌感覚</p>

	<p>で、地球がおかしいということを感じているかもしれない。</p> <p>ここで、触って、計って実感するような器具もそろえておくと、使ってみたくなる子どもたちも出てくるかもしれないので、広めていかれたらと思う。</p>
委員	<p>教育機関との連携について質問させていただきたい。</p> <p>実際に知る・学ぶというフェーズの中高生へのアプローチが話題になっていて、委員長から学校の先生向けの研修のようなものという提案があった。先生が研修を受けやすい時期は、夏休みや冬休みなど時期がほんとに特定されているので、知ってもらう機会が鍵になると思うが、そのためのコミュニケーションはどれくらい今取られているのか。これから取っていくのであれば、ぜひ何か後押ししていきたい。</p>
事務局	<p>教育委員会との連携については、小学校4年生のカリキュラムでごみ処理施設の見学があるので、クリーンセンターと共に、エコリゾートのほうにもお越しいただくように教育委員会や校長会に出向いてお願いをしている。予算も計上してバスの借上げをし、遠隔地の学校のお子さま方を連れて来られたりしている。</p> <p>一つ前の生物多様性の環境啓発冊子についても、教育委員会とやりとりし、理科の先生方の集まりにも出向いて行って、冊子の紹介もさせていただいた。</p> <p>教育委員会の指導主事の先生方と共に、活用いただけるようないろいろな働きかけをしている。</p>
委員長	<p>ここがオープンしたとき教育長さんが見えていて、名刺交換した記憶がある。ぜひ働きかけをお願いしたい。</p>
事務局	<p>資料5について説明。</p> <p>環境啓発施設の運営管理として、3月9日、品川区の環境学習交流施設「エコルとごし」に8名の委員の方に視察に行っていた。</p> <p>エコルとごしは、昨年5月に開館し半年で約10万人の来館の方があった施設で、集客力が非常に高いところに着目した。公共施設の中では都内初のZEBの認証施設であり、常設展示、映像展示などを使った体感を重視した展示、多彩なイベントや講座で環境を楽しみながら学べる施設をコンセプトの運営をしている。</p> <p>約2時間にわたり、館長はじめ品川区の環境課長や環境関連の職員の方々にご案内いただき、施設見学ならびに質疑を行った。</p>
委員長	<p>ZEBの仕組みも、もう少し子どもたちに概念が伝わるような展示</p>

	<p>があるとよかったと思う。認証をもらうことが目的ではないと思うので、それによって、どうエネルギーを使わずに済んでいるかといった客観的データに基づいて判断していくところがあるとよかった。</p>
委員長	<p>4番の、武蔵野市第六期長期計画・調整計画のヒアリングの報告をさせていただきたい。</p> <p>伝えたことは大きく三つで、コロナワクチン接種会場に使用されることが多かったが、施設の公平な使い方をきちんと議論してほしい。フードバンクのために倉庫を貸し出ししているが、公平な施設の使い方の一貫として今後議論してほしい。</p> <p>今の環境問題は非常に複雑化し、そして不確実性の高い問題が多いので、正規職員・スタッフへの研修をやってほしい。</p> <p>長期計画・調整計画では委員長が縦軸と横軸の交差しているところに施策の柱があり、その交差した柱の相互のつながりが今問われている環境問題である。そこをきちんとやるということが大事で、科学的根拠に基づいて、方向付けや方針が不可欠ではないかということに対し、参加型でちゃんとやっていくと明快にお答えいただいた。</p> <p>この温暖化の危機と生態系の危機と資源浪費による危機の三つは相互に関連している。脱炭素社会、自然共生社会、資源循環型社会は相互に関連しているので、そういったことをきちんと学ぶ施設として、また市民を啓発し、行動変容を促すところまで行きたいという願いを込めて意見を述べた。</p> <p>他団体は、たくさんの方が参加して役割分担している。1人が行って強く言うより、小出しにして、みんながそれぞれ主張することが大事だと実感した。</p>
副委員長	<p>パブリックコメントが終わり、市民や議会からの意見を受け止めて調整計画で修正案を作って、最終的に答申する形なので、今はその議論のちょうど真ん中ぐらい。</p> <p>各種団体があるが、利益誘導というよりは、皆さんが慣れていて、市の最上位計画である長期計画に取り上げられることが市民参加のまちづくりになると理解されている。個別の要望という話ではなくて方向性。なので、委員長が述べた、公共事業の公平な使い方というのは非常に重要な問題として受け止められていると思う。</p>
委員長	<p>今、武蔵野市もこどもエコクラブ参加団体が増えてきている。よくスーパーで大野田の小学生たちが発表しているが、全国大会にも</p>

	行けるように、壁新聞も作成していただけるように、ぜひご指導いただければありがたい。
事務局	<p>委員長から話のあった食品ロス関係の取り組みについて、環境面の中から食品ロス削減のため何ができるだろうかということで、令和3年の第1回、第2回の会議でお話をさせていただいた。現状としては、むさしのエコ re ゾートの施設の資材置き場のところを、市民社会福祉協議会にお貸しして、フードバンク団体が活動をするための食品保管庫として利用している。</p> <p>コロナのため活動停止中だったが、12月からこの施設のフルで通常利用できるようになったので少し活動が始まる。</p>
委員長	現状、始まっている。でも、この運営委員会では、倉庫としておくという議論もされていないし、諮ってもいない。どこが許可をしたのか。どういう経緯でそこになったか、その経緯をちゃんと文章に書いて説明してほしい。
事務局	過去に資料として会の中で出しているが、手法的に進めていく部分もある。限られた方たちだけで使う施設ではないので、関わる方や活動の機会を増やすことで、共感を生む。
委員長	ここでは、それは話し合っていない。それを肝に銘じて、活動、発言してください。
事務局	お話をしっかり受け止めて、事務局としての対応をしていく。
3. その他	
事務局	<p>本日の議事要録について、確認をお願いしたい。前回の会議の議事要録は、本日お送りするのでご確認いただきたい。</p> <p>次回は、5月後半に予定をしている。日程調整するのでよろしくをお願いしたい。</p>
事務局	退任あいさつ。
委員長	ありがとうございました。